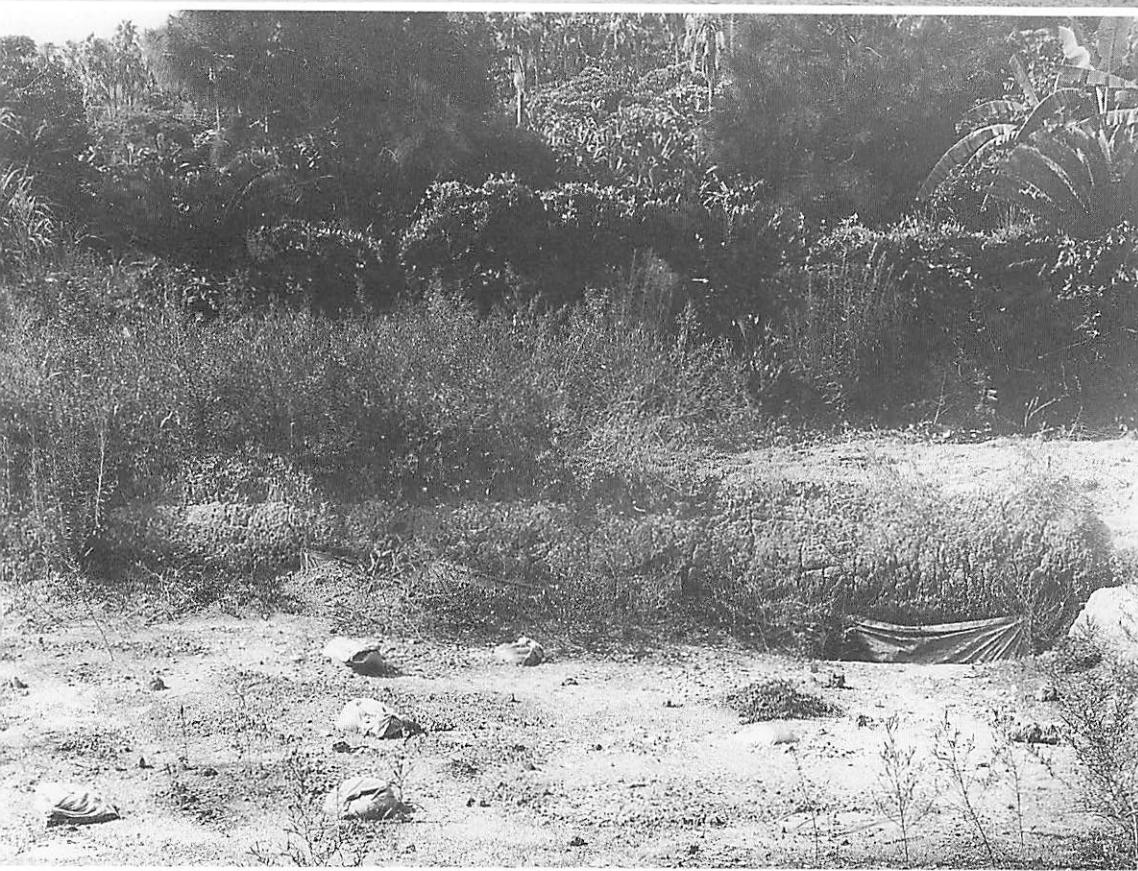


図 版



用見崎遺跡遠景
(東側より)

東側海上のリーフより望む。矢印下の砂丘が遺跡。右は高崎山。



調査前の遺跡近景
(北側より)

昨年度調査終了後の埋め戻し状況。右側に高崎山の山裾が迫る。



B-3区遺物出土状況
甕の口縁部。周辺にレイシ殻が集まる。

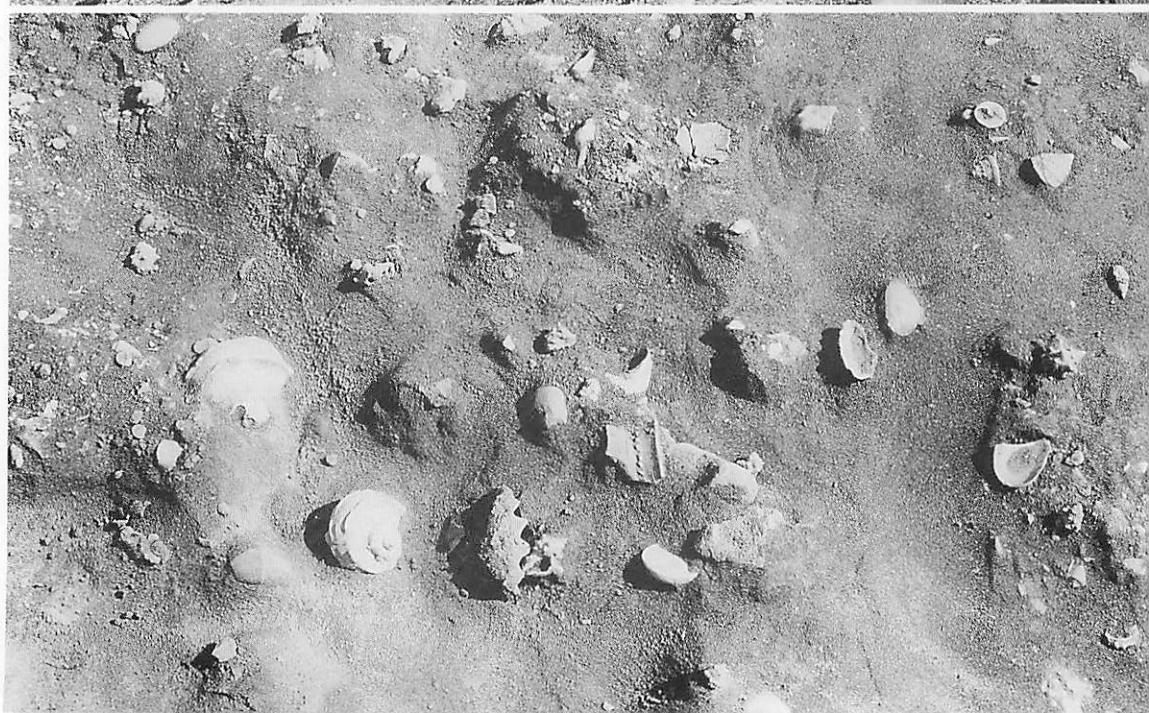
図版 2



A-2 区遺物出土状況
凸帯を有する甕の口
縁部など土器が集中して出土した。土器の周囲にはアマオブネ
が集まる。



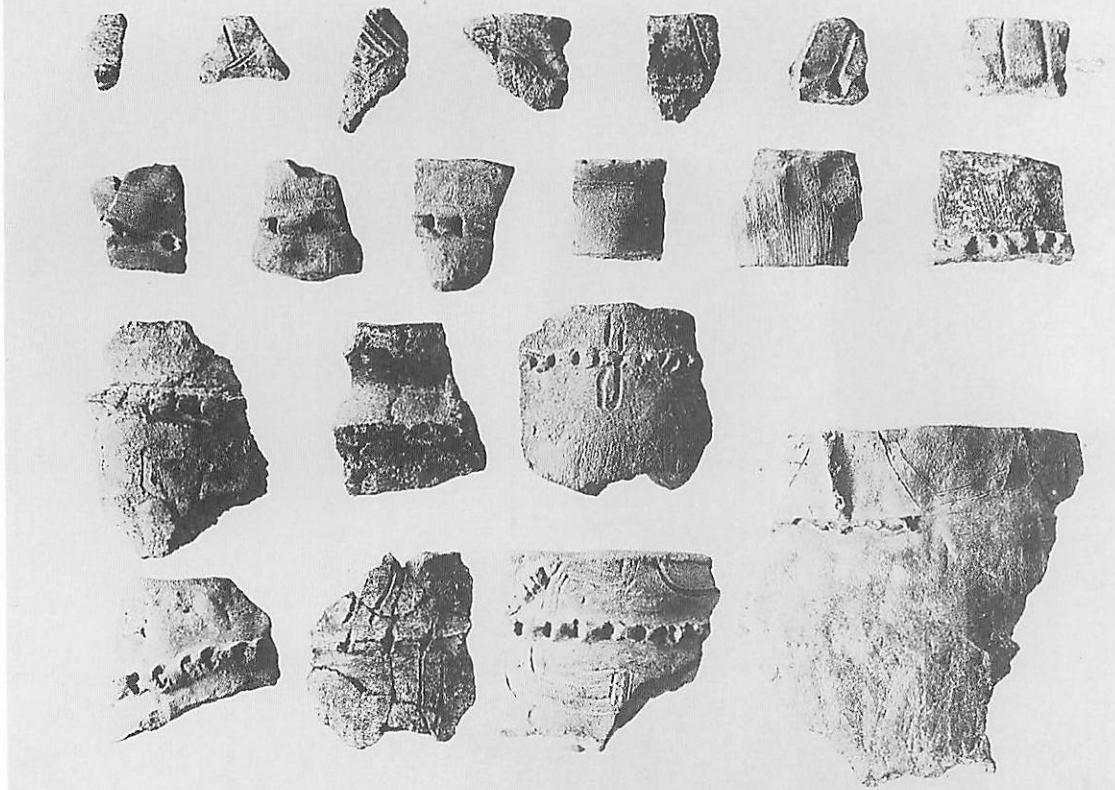
B-2 区遺物出土状況
貝錘が 2 点近接して出土。



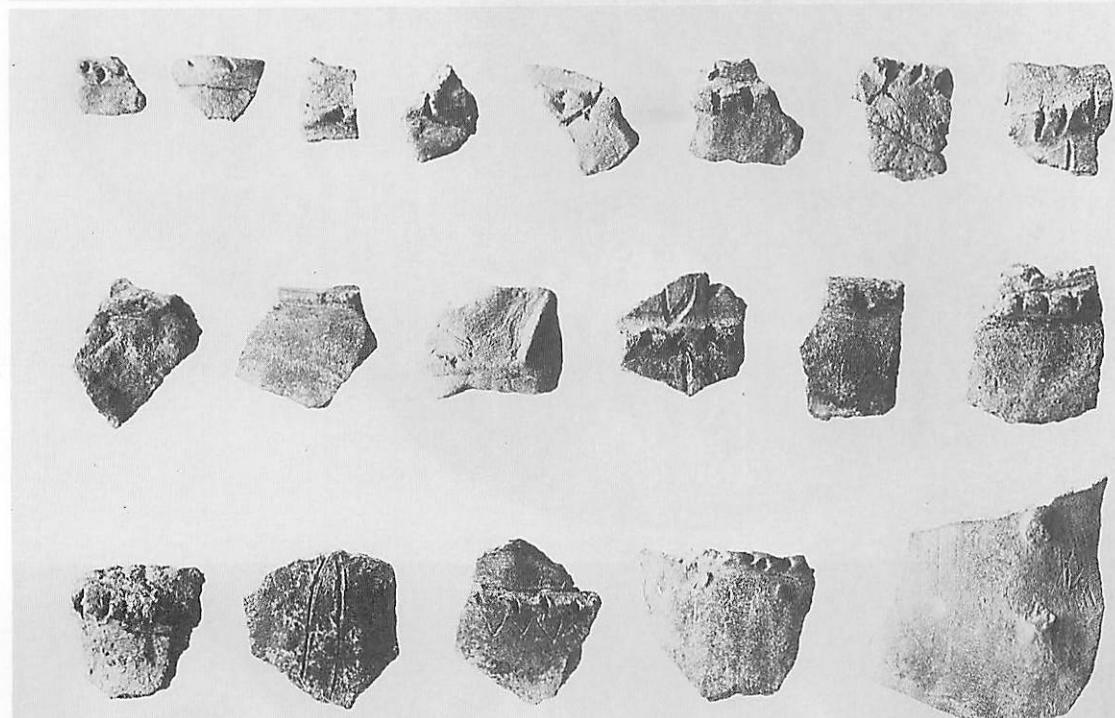
B-2 区遺物出土状況
IVe 層を検出した状況。中央下に凸帯を有する壺口縁ヤコウガイ、シラナミがみられる。



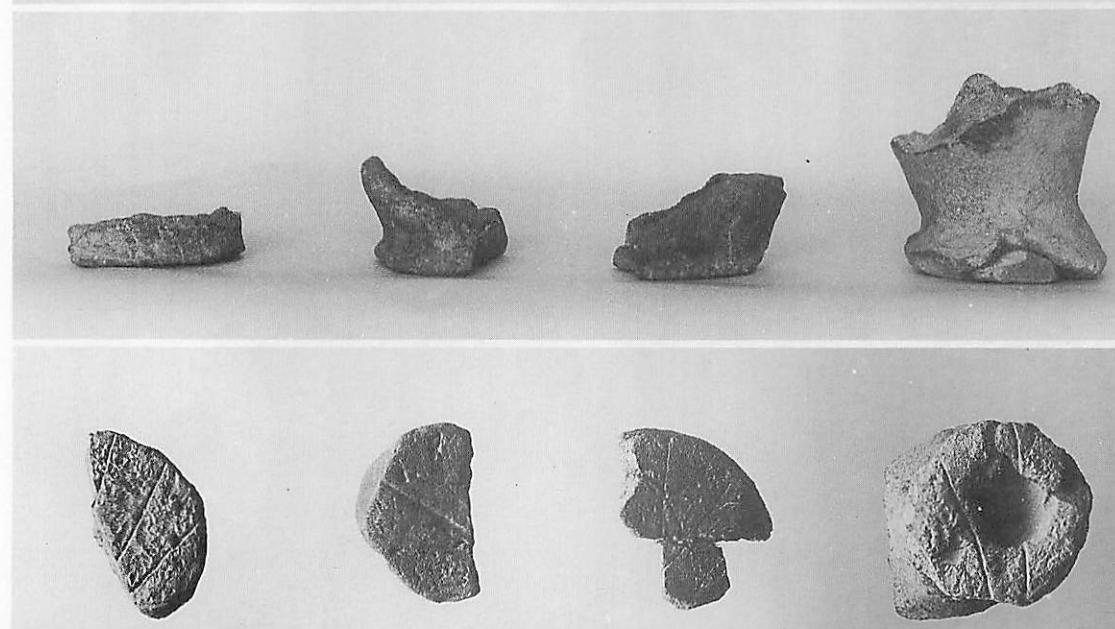
出土土器 (1)
甕・壺 口縁部

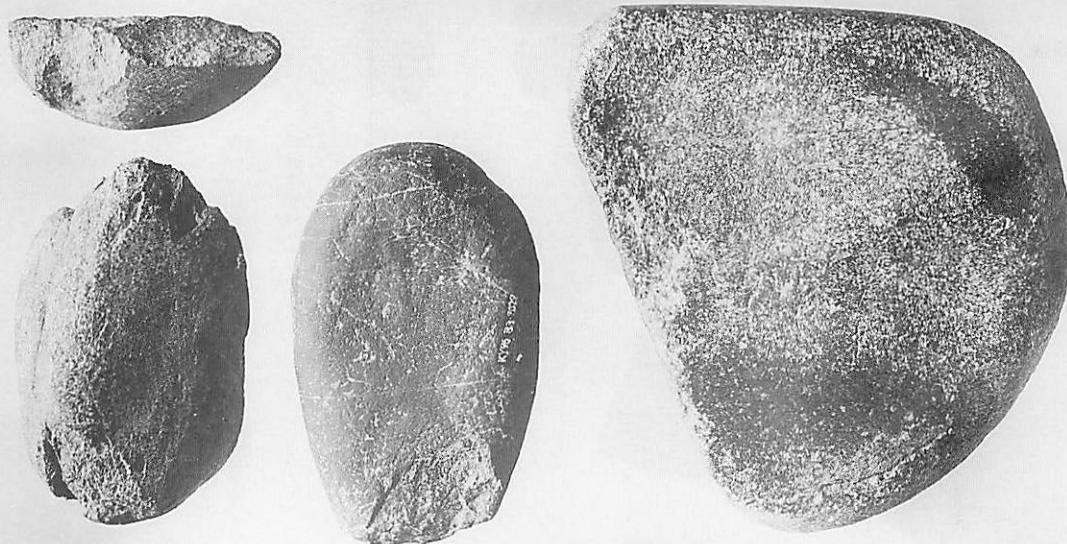


出土土器 (2)
甕・壺 脊部

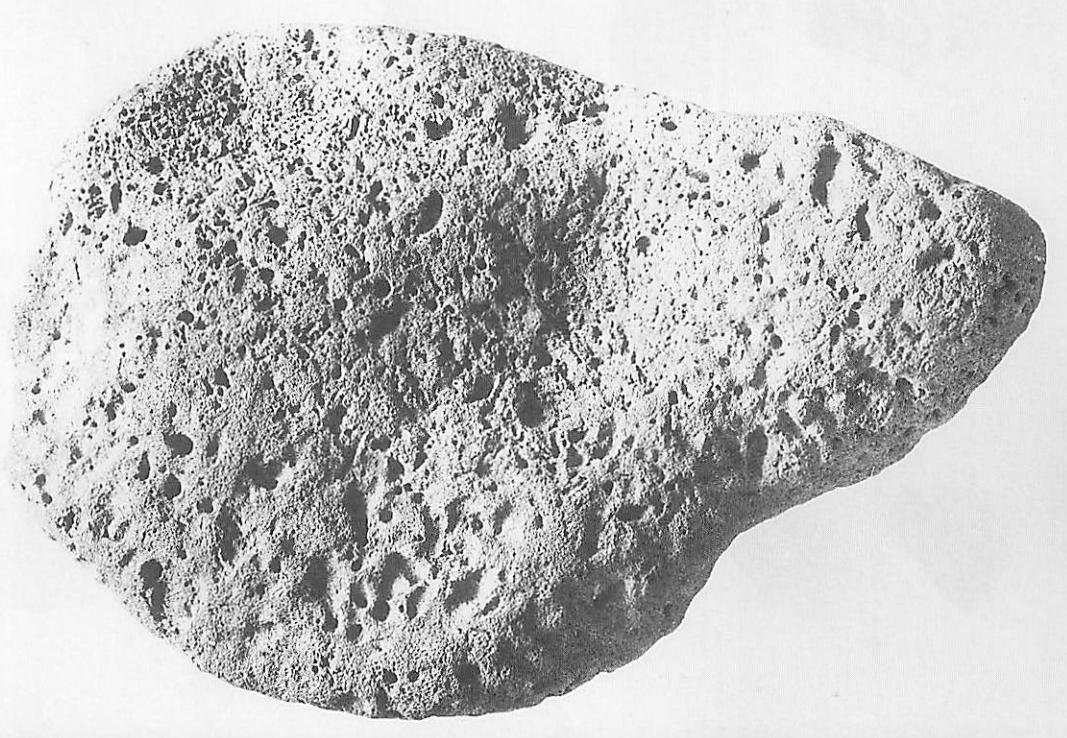


出土土器 (3)
底部 (下段は底面)

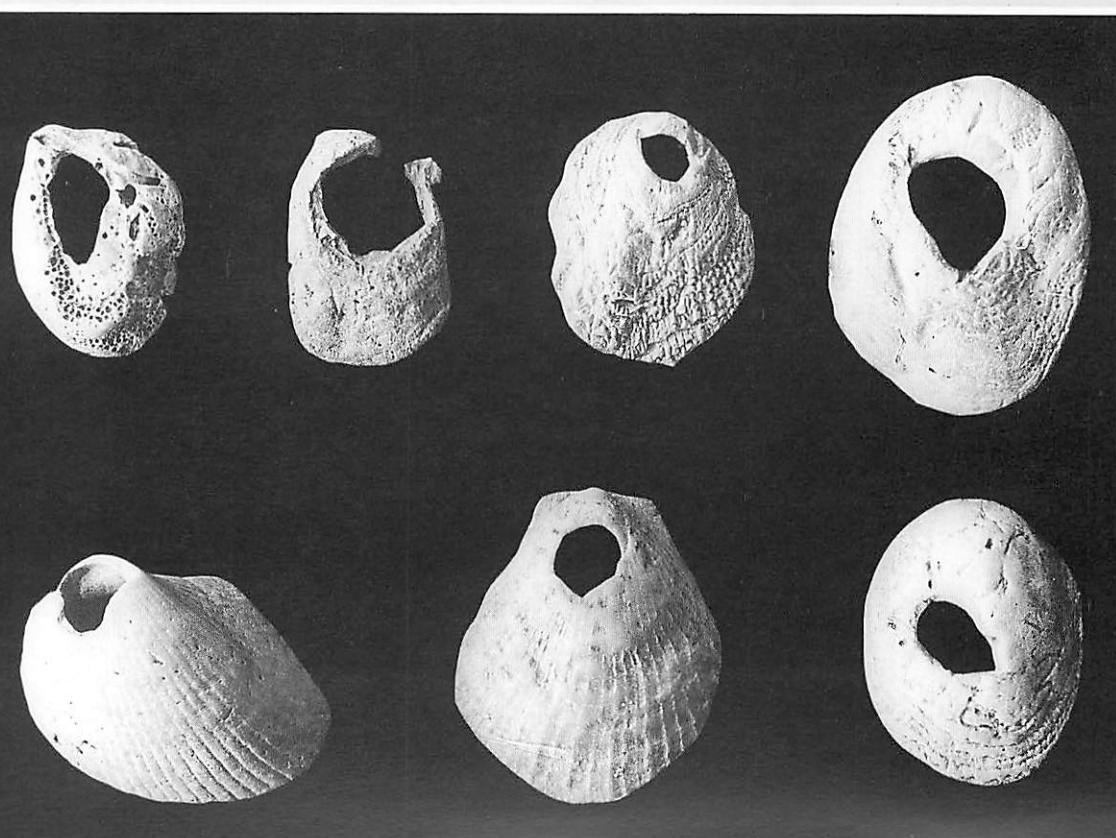




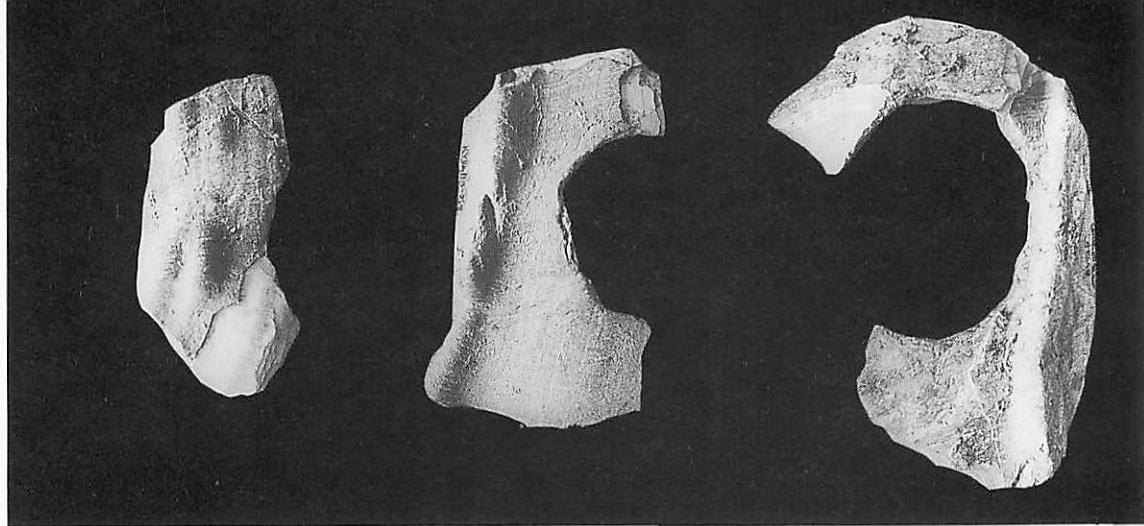
出土石器 (1)



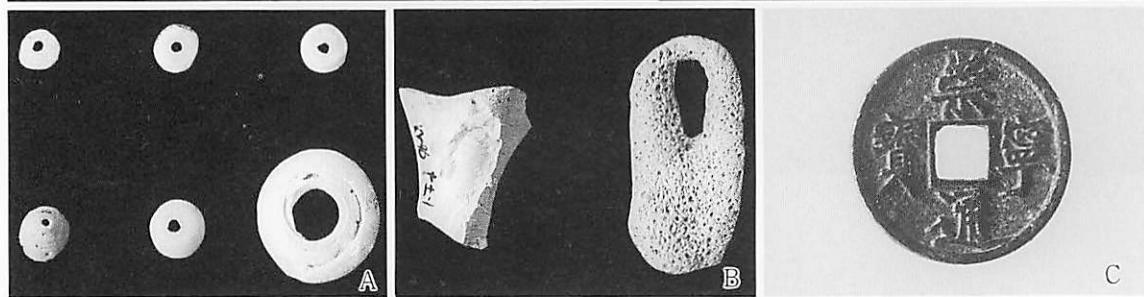
出土石器 (2)



有孔貝製品



環状ヤコウガイ製品

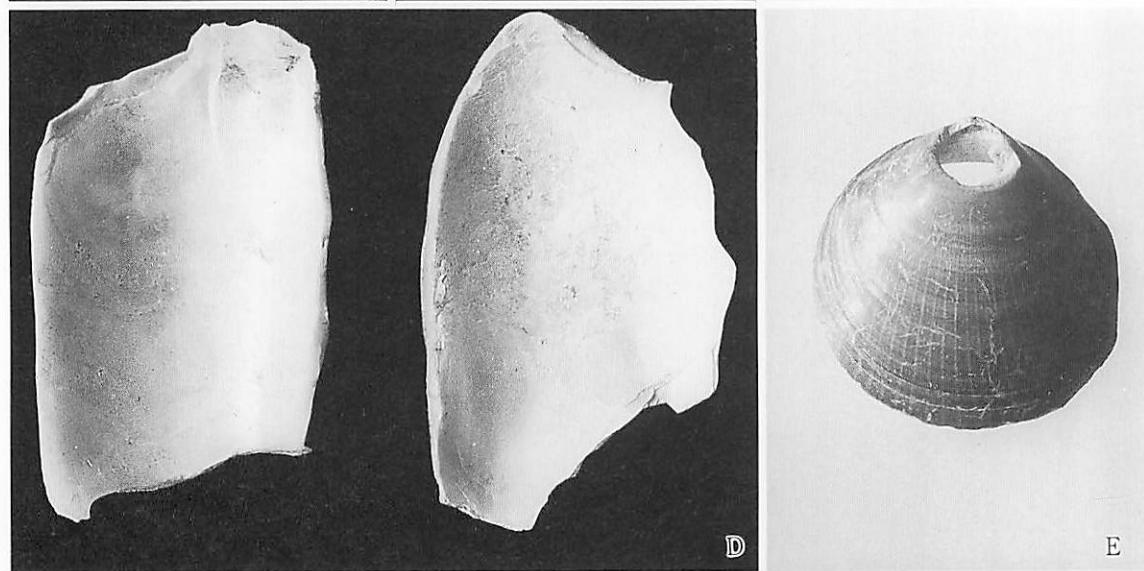


A貝製玉

B(左)貝製品破片

B(右)有孔サンゴ製品

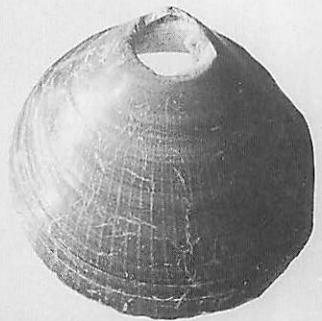
C崇寧通宝



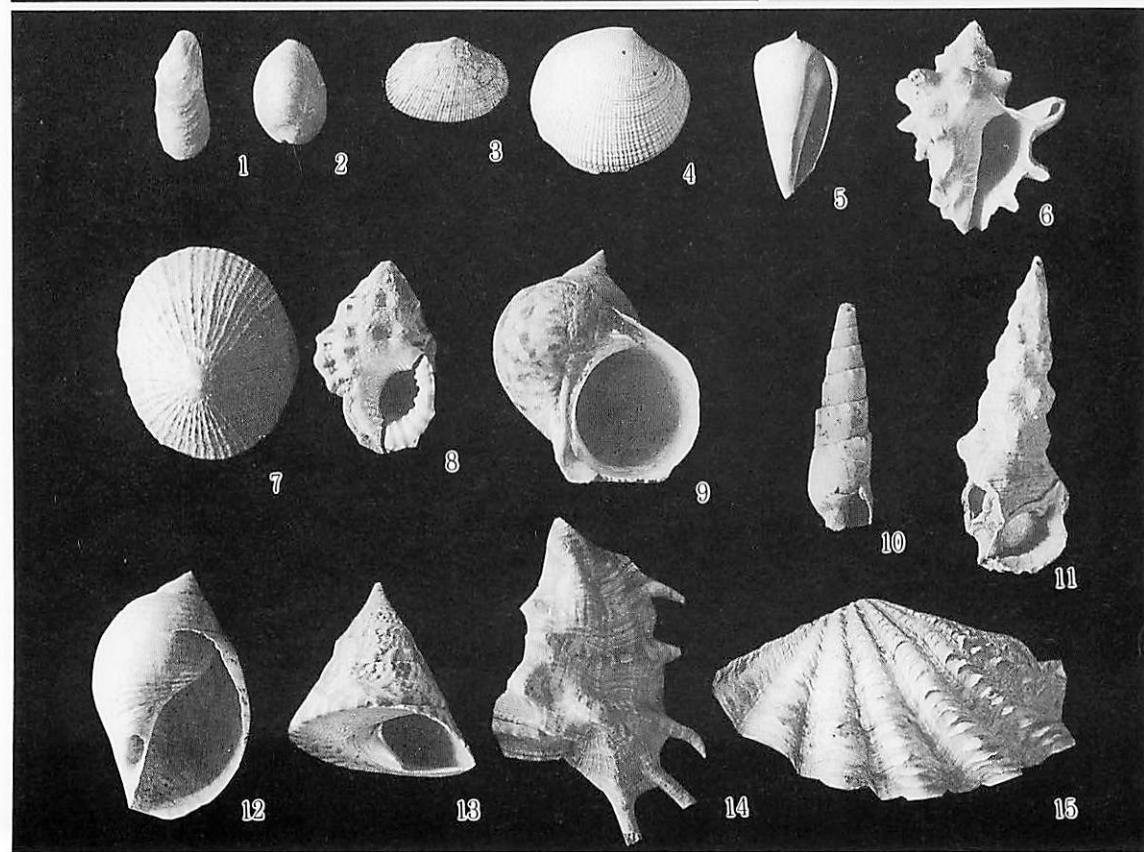
D匙状貝製品

Eトドロキガイ製製品

D

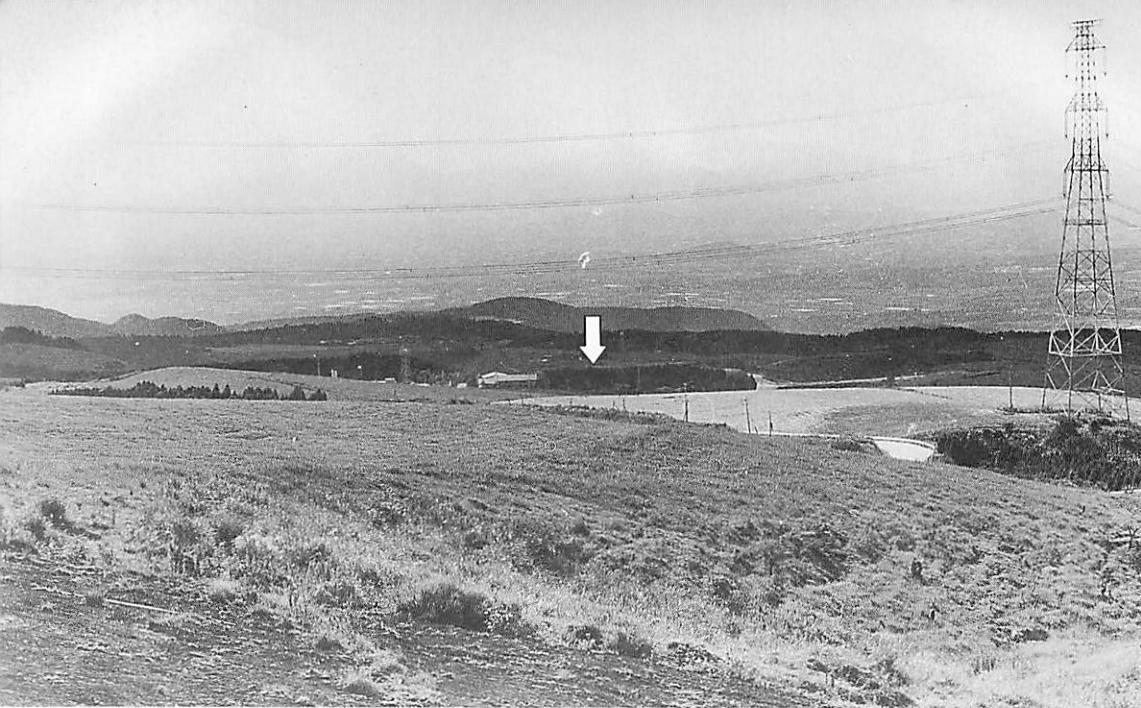


E



自然遺物

- 1 リュウキュウヒバリ
- 2 ハナマルユキ
- 3 リュウキュウマスオ
- 4 ツキガイ
- 5 マガキガイ
- 6 アッキガイ科
- 7 オオベッコウガサ
- 8 オキニシ
- 9 チョウセンザザエ
- 10 タケノコガイ
- 11 オニノツノガイ
- 12 ウズラガイ
- 13 サラサバティ
- 14 クモガイ
- 15 ヒメジャコ



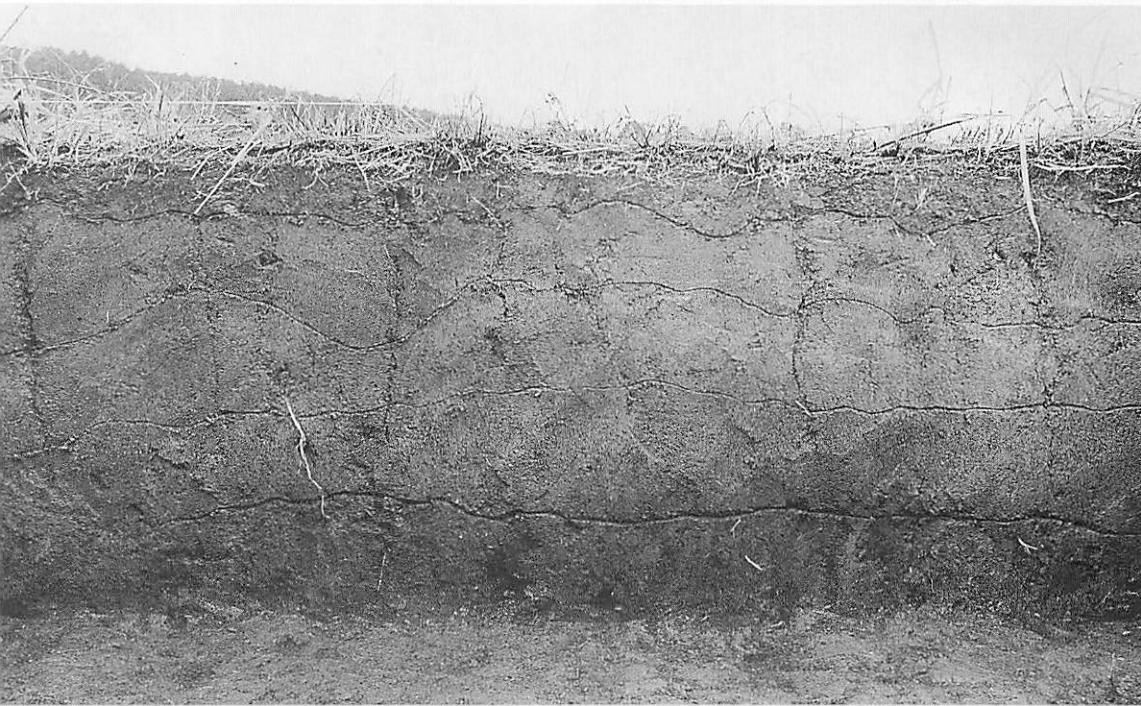
西原 F 遺跡遠景
(東側より)

矢印下の林の奥が遺跡。手前の草原は牧草地として利用されている。



調査前の遺跡近景
(南西側より)

轍を中心に向かって右が A～C グリッド、左が E～H グリッド。

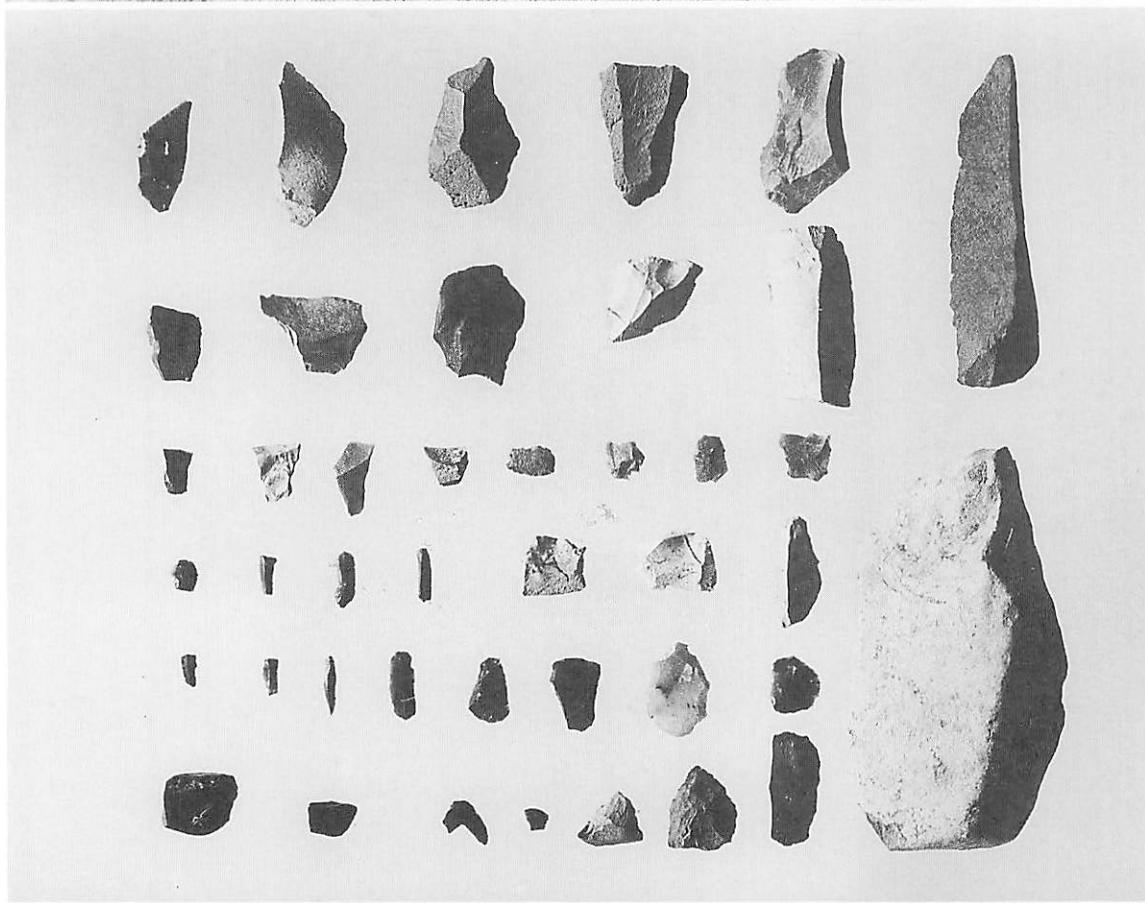


H 8 グリッド
南壁セクション
下の暗い層がIV層。
各層にわたってクラック
が著しく発達する。

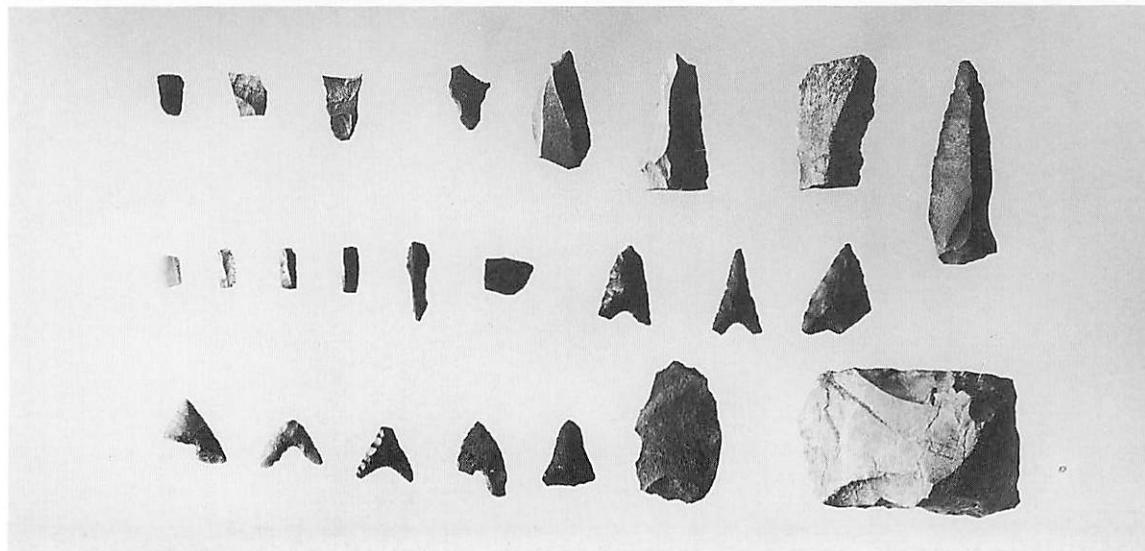
スクレイパー出土状況
IV b 層下部より台形
様石器に伴ってスク
レイパーが出土。



出土石器



採集石器



報告書抄録

ふりがな	ようみさきいせき ふへんにしほらえふいせき
書名	用見崎遺跡 付篇西原F遺跡
副書名	
卷次	III
シリーズ名	熊本大学考古学研究室活動報告
シリーズ号	32
編著者名	若杉竜太・尾上博一
編集機関	熊本大学文学部考古学研究室
所在地	〒860熊本県熊本市黒髪2-40-1 TEL・FAX096-342-2324
発行年月日	1997年3月3日

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ようみさき 用見崎遺跡	鹿児島県 大島郡 笠利町 用字見崎	465283	1	28° 31' 30"	129° 41' 32"	19960711 19960722	110m ²	学術調査
にしほらえふ 西原F遺跡	熊本県 阿蘇郡 西原村 河原字大野	43432		32° 47' 32"	131° 15' 6"	19960810 19960818	45m ²	学術調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
用見崎遺跡	砂丘 遺跡	古墳時代 ～古代	遺物包含層	兼久式土器 石器 貝製品 サンゴ製品				
西原F遺跡	散布地	旧石器時代 ～縄文時代	遺物包含層	台形石器 ナイフ形石器 細石器 縄文土器				

用見崎遺跡Ⅲ

研究室活動報告 32

発行年月日 1997年3月3日

編集・発行 熊本大学文学部考古学研究室

〒860 熊本市黒髪2-40-1
TEL・FAX 096-342-2324

印 刷 緒 方 印 刷

〒862 熊本市月出2丁目3-42
TEL 096-384-2821